

## 大原社会問題研究所五十年史

## III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

## 多年の懸案解決す

七月二日には全委員が参集して東京移転後の研究所に対する大原氏の出資金額、期間、その他退職手当、移転費などについて協議したが、その結論をもって翌二二日、大内、権田、森戸三氏は倉紡に林氏を訪問、最後の折衝にはいった。林氏は移転後毎年二万五、〇〇〇円ずつ四ヵ年継続支出の意向を表明したが、交渉委員は六ヵ年継続支出を主張した。しかし結局、研究所の土地建物等の売却代金をもって、退職金、移転費、新事務所購入費等にあてることに話は落着した。二三日には大原氏と研究所間に取りかわす覚書きの草案と、新聞その他に公表する声明文について各委員の打合わせが行われ、二四日以後は、移転後の新役員の決定等について協議がかさねられた。二五日の委員会の席上、高野氏は新役員として常務理事森戸氏、理事久留間氏を指名したが、両氏は承諾を留保したので決定にいたらなかった。委員会散会后、高野所長は林氏の案内で大原氏を訪問、まず研究所に対する深い理解と多年の援助を厚く感謝するむねのべ、終って柿原氏の監事辞任申出でについて話し合った。また高野氏は大原氏に感謝の意を表するため肖像画を贈りたいと申出でたが、大原氏はこれを辞退した。こうして覚書きを交換してこの会見は終わった。多年の懸案はようやくここに解決を見た。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

---

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

---

研究活動・刊行物 [OISR.ORG全文検索](#)

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---